

⑫公開特許公報(A)

昭54—65528

⑪Int. Cl.²

G 03 B 27/32

G 03 B 21/11

G 03 G 15/00

識別記号

⑫日本分類

103 C 21

103 D 1

103 K 12

庁内整理番号

6239—2H

6401—2H

6805—2H

⑬公開 昭和54年(1979)5月26日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 11 頁)

⑭可変倍率リーダー・プリンター装置

⑯発明者 斎藤英一

横浜市緑区たちばな台2の9の
1

⑰特 願 昭52—132251

⑱出 願 昭52(1977)11月4日

⑲発明者 山崎貞一

東京都世田谷区羽根木町一丁目
12—5

⑳出 願 人 富士ゼロックス株式会社

東京都港区赤坂3丁目3番5号

㉑代理人 弁理士 米原正章 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

可変倍率リーダー・プリンター装置

2. 特許請求の範囲

フィルム19の映像をスクリーン2、感光体22のどちらか一方に投影できるようにしたリーダー・プリンター装置において、フィルム19が装着されるフィルム載せ台18を備えた移動台57を变速機構を介して動力源に伝動し、投影像の倍率を変更する第1・第2拡大レンズ20、20、のどちらか一方を所定位置に移動切替可能に構成すると共に、該第1・第2拡大レンズ20、20の切替手段と前記变速機構とを相互に連動して切替作動する如く機械的に連係したことを特徴とする可変倍率リーダー・プリンター装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明はスクリーン上にマイクロフィルムの像を投影して、観察し、また投影を消去してマイクロフィルムと感光体を移動しながらマイク

ロフィルムの像を感光体に投影して複写する可変倍率リーダー・プリンター装置に関するものである。

一般に、マイクロフィルム(以下フィルムとする)の駒サイズに関する規格は幾多の種類がある。またフィルムは被写体の種類、大きさにより焼付の縮少率が異なり、このためフィルムに記録された画像のサイズが一定していない。また複写用紙として異なる大きさを選ぶことができる場合、必要とする投影拡大倍率が異なり一定しない。

1例として、マイクロフイツシュフィルムの規格として広く利用されているNMA(National Microfilm Association)またはANSI(American National Standard Inc.)のA1規格の1駒の大きさは10mm×12.5mmであり、また同A2規格では11.75mm×16.50mmである。仮りに210mm×297mmの大きさをもつJISA4利用紙の文書を被写体としてNMA-A1規格に焼付ける場合の縮少率を25分の1とすれば1駒の

像の大きさの範囲は 8.4×11.88 であり、また 2.57×3.64 の大きさの J18 の B4 判原稿を NMA-A2 に 20 分の 1 で縮付けられれば像の大きさは範囲は 10.50×14.85 である。

それらに反して拡大倍率で複写機に投影すればもとの原稿の大きさを復写が得られる。また縮付の縮少率と複写の拡大率の関係を望むと複写は原稿の大きさに対して拡大したり縮少したりしたものを得ることができ。

このように複写本文書の大きさをやフィルムの規格に反していろいろな種類の焼付縮少率が使用されており、また必要とする複写の大きさに反して、この種のリターゲ・プリント装置では異なるサイズのフィルム上の画像から複写本文書を再現するのに異なる大きさの用紙に複写を行なうために異なるサイズの投影の拡大倍率を使用できるような必要がある。

またフィルム上の画像を観察する場合スクリーン

とである。

以下図面を参照して本発明の実施例を説明する。

第1図は本発明に係るマイクロフィルムリターゲ・プリントの全体外観を示す斜視図であり、本体1内には電子写真用感光ドラム2と上記その映像・焼付処理装置等（図示せず）が収納されている。

本体1の上部にはスクリーン2を有するビューワー3を配置する。給紙ユニット4は本体1内部に設けてあり、外部からの着脱により各種サイズのユニットと交換される。複写する際はユニット内から用紙が複写部に向けて給送される。複写部を経てプリントした用紙は紙受ユニット5に排出される。

操作パネル6の上に設けられた操作盤7には電線投入ボタンス8、プリントボタンス9、倍率切替レバー10、焦点調節つまみ11、照度調節つまみ12、コピー枚数カウンタ13など

のスイッチや調節つまみを配置している。

特開昭54-6528(2)
一ノの中央に像を投影するため画像の中心と投影レンズの光軸が一致する位置にフィルムを配置してスクリーン上の投影像を観察している。

このために所望の画像をスクリーンに投影したあと、フィルムと感光体を移動しながら画像を感光体にスクリーン露光して複写するには画像の露部からスクリーン露光する必要がある。

また、投影拡大倍率が異なる場合にはフィルム上の移動速度又は感光体の移動速度を変更する必要がある。

以上のことから、この種のリターゲ・プリント装置では観察状態にある画像を観察位置から移動させ、画像露の露部からスクリーン露光するため画像露の露部を複写開始位置に位置決めするとともに画像露のサイズに応じてその移動範囲と、移動速度を調整する必要がある。

本発明は上記の事情に鑑みなされたものである。その目的は、投影拡大倍率を変更すると自動的にフィルム上の移動速度が切替るようにした可変倍率リターゲ・プリント装置を提供することである。

第2図は本発明に係るマイクロフィルムリターゲ・プリントの画像投影系を示すものである。光源14から発射された光束は非球面レンズ15および集光レンズ17によって集束され、フィルム載せ台（キャリッジ）18の上に装填されたマイクロフィルム（以下フィルムとする）19を照射し透過する。

フィルム映像は第1・第2拡大レンズ20、120のどちらか一方によって拡大され、投影像をスクリーン2または複写機の感光ドラム22のどちらか一方に結ぶ。

すなわち、スクリーン2に投影像を結ぶ光路は第1ミラ27、第2ミラ23、第3ミラ24に反射されるものである。一方、第2ミラ23がモータによって駆動するクランク25に結合したロッド26によって傾斜位置23'に移動すると光路は第4ミラ28及び第5ミラ29に反射しスクリーン30を経て感光ドラム22に至る。

第1・第2拡大レンズ20、120は異なる

特種 0354-65528(3)

復帰するが、移動台 57 は 71 ル 1 枚の操作を終ると復帰のため逆方向へ移動する必要があるからそのときはクランプ 66 に上つて露光 15.2 から移動力を切り離しかつクランプ 61 を戻として逆移動モード 56 に上つて矢印の方へ移動台 57 が移動する。

第5図はレシム交換装置及びクラッチ52の詳細とその運動機構を示す斜視図であり、第1、第2班大レシム20、20はフイルム載せ台下方に設けたターレットセクタ41に上下開閉機構を介して配連してある。ターレットセクタ41は略扇形となり、軸43により揺動自在に支承されかつ支持板42上に載置されている。支持板42には第1、第2ストッパ45、46が固設され、固足側とターレットセクタ41とに亘りバネ48が設けられてターレットセクタ41をバネ49の死点を越えた左右どちらか一方側位置に揺動付勢してどちらか一方のストッパ45、46に当接位置決めしている。前記

る倍率を有する一対のレシムであり、換算のレシム交換装置によつて切替作動される。

第3圖-第4圖は感光度 $F \leq A_2$ と A_1

載せ合 18 の動力伝達装置を示すものであり、

感光フィルム巻に取付けた風動メーターより、3から5
速の1・4、3・3、3・4、3・5および減速へん1・32
および3・6のフィルム巻の動力が印度山かれて表出
される。

7-137, 38から入る5から出る
第1変速機構1と7-139, 40から入る
51から出る第2変速機構0はそれぞれ異なる変速比を有し、選ばれた投影画像の拡大率に応じて伝送するクランク52の作用によつて、それが進ばれる。この駆動は更に7-153, 54から入る55に所通され、入ると直結した移動台57を所期のスピードと方向で移

712.2 搬上合 1.8 は移動合 5.7 の上に搭載
されてあり、移動合 5.7 は運輸 5.8 により一対
の 1-2.59, 6.0 の上を移動する。

倍率切替レバ10はレバ10まで左右回動自在に支束され、下座2又部10bにはレバ部材47が嵌合している。レバ部材47はレバ47aで船動自在に支束され、その一端47bは連動形材44の一端に突設した一對のピン44a、44b間に嵌着連結されている。連結部が44は固定体に設けた一對のピン44b、44aに嵌つて左右滑動自在にガイドされ、その末端は前記レバ10とクランク11に嵌着連結してある。

一方、クランチ52は次のようになっている。すなわち、プーリ35の出力軸48にはプーリ37とプーリ38とが回転自在に外嵌され、出力軸48と平行となつた軸64には小径プーリ38と大径プーリ40が固設してあると共に、軸64にはクランチ66を介してプーリ53が設けてあり、前記プーリ37、39の対向端面には凹凸状の第1・第2被クランチ歯37a、39aが対向して固設されていると共に、出力軸48にはクランチ52aが軸方向滑動自在でかつ回転不能なる如く外嵌され、クランチ

この構造である、倍率切替レバ10を左右に揺動して倍率の異なる弧大レンズ20, 20, に切替えると、レバ部材47が揺動してクラッチ体52が左右に揺動し第1・第2クラッチ歯37a, 39aのどちらか一方が第1・第2歯クラッチ歯37a, 39aに噛合して軸64の回転を自動的に2段のに変速できる。前記上下調整機構はネジ杆bにネジ合した取付板cと、ネジ杆bと焦点調整つまみ11とを連結するスリッド, e, f, ベルトg, hにより構成される。

第6図は移動計57の移動系を示す原理図であり、移動計57の移動方向と速度については図58と、アラケツト57を介して案内車輪58と、アラケツト57を介して案内車

輪 58b とがそれぞれ複数設けられ、各車輪 58a, 58b が固定部に取付けられた一対のレール 59, 60 の上面・側面にそれぞれ摺接して移動台 57 をレール 59, 60 に沿って円滑に移動できるようになっている。62 は移動台 57 に設けたスプリングで、該スプリング 62 により制動部品 63 がレール 59 に圧着され、移動台 57 が移動することによつて発生する振動を吸収できるようになり、複写像にブレが現われることを防止している。

また、スクリーン 20 像を投影するとき、移動台 57 は行程の中心位置に固定されるが、それは移動台 57 に設けられた穴 65 に対し、固定部に取り付けられたソレノイド 68 のプランジャー 67 が押し込まれることによつて位置決めがなされる。移動台 57 が移動するときは、ソレノイド 68 がプランジャー 67 を吸引して移動台 57 の繫留を解除する。

第 9 図は感光体 22 とフィルム 19 (移動台 57) の移動位置の関係を示す概略斜視図であ

特開 昭 54-65528(4)
り、スクリーン 2 に投影像を映す時にはフィルム 19 を画像の中心と光路の中心とが合致した実線で示す位置 19 とする。

また、複写するときには感光ドラム 22 の初期位置 71' にフィルム 19 の移動開始端を合わせて露光する必要があるため、感光ドラム 22 の露光の開始に先立つてフィルム 19 を点線で示すスタート位置 19' へ予め移動しておき、感光ドラム 22 の回転開始と同時にフィルム 19 は矢印 a 方向に感光ドラム 22 の周速度を拡大倍率で除した速度で移動する。

このようにして移動終了位置 19'' までフィルム 19 が移動して露光を終了する。そしてただちにフィルム 19 はもとの位置 19 に復帰して複写のサイクルを終了する。

以上の動作を更に詳しく説明すると、移動台 57 が複写に先立つてスタート位置 19' に至るためには第 6 図においてソレノイド 68 を吸引して移動台 57 の繫留を解除し、逆移動モータ 56 とクラッチ 61 を励起して移動台 57 を逆

移動させる。そして固定部分に置かれたスタート位置検出スイッチ 70 に移動台 57 に取付けた第 1 アクチュエータ 71 が接触するとスタート位置検出スイッチ 70 から停止制御が発せられて逆移動モータ 56 およびクラッチ 61 の励磁が解除され移動台 57 が一旦停止する。

一方、感光ドラム 22 の角度初期位置は Δ 印 72' であつたが、フィルム 19 の逆移動の開始と同時に矢印 b 方向へ回転を開始し、フィルム 19 がスタート位置 19' に至つて停止した現在は感光ドラム 22 はかなり回転が進んでいる。感光ドラム 22 の回転が更に進み Δ 印で示す複写開始位置 71' に至つたとき感光ドラム軸に結合されたカム 73 がスタートマイクロスイッチ 74 を動作させ、その制御により第 6 図のクラッチ 66 が移動台 57 へ動力伝達を結合し、移動台 57 が矢印 a 方向へ移動を開始する。第 9 図でフィルム 19 が終了位置 19'' に至つたとき終了マイクロスイッチ 75 が動作し、第 6 図のクラッチ 66 を解除して感光ドラム軸からの動力伝達

を解除し、代りに逆移動モータ 56 およびクラッチ 61 を励起し移動台 57 を復帰する。

すなわち、クラッチ 66 及びクラッチ 61 をらびに逆移動モータ 56 は感光ドラム 22 と同期して回転するカム 73 によりマイクロスイッチ 74, 75 を ON・OFF することで動作制御される。

ここで、問題となることは拡大レンズ 20₁, 20₂ の倍率が異なる (第 1 拡大レンズ 20₁ を使用するか、第 2 拡大レンズ 20₂ を使用するかで拡大倍率が異なる) 場合にはフィルム 19 のスタート位置 (移動台 57 のスタート位置) を異ならせる必要があることである。そこで、実施例においては移動台 57 の後端に長さの異なる第 1・第 2 アクチュエータ 71, 72 を間隔的に固設し、スタート位置検出スイッチ 70 を該第 1・第 2 アクチュエータ 71, 72 のどちらか一方と対峙する位置に移動できるように設け、倍率が異なる場合にはスタート位置検出スイッチ 70 を移動してスタート位置を変更で

きるように構成してある。

また、複写機において複写用紙の大きさが、例えばJIS A4判とB4判の2種類が使用可能とする場合、感光ドラムの軸から取出す制御が複雑になるからカム73、マイクロスイッチ74、75等をもつてするシーケンスコントロールの機構は第3図に示すように複雑な構造になる。

また、フィルム移動台57が逆移動や復帰の行程にあるときおよび第2ミラー23が位置を変える行程にあるとき、スクリーン2に無意味な像を投影しないため、および感光ドラム22に無意味な像を露光しないようにするために、これらの動力と連動して第2図における光源14を消灯する。スクリーン投影中および複写中は光源14を点灯する。

次にフィルム載せ台18の詳細を説明する。

板状の基体100の下面には環状突起101が一体的に形成されていると共に、環状突起101は前記移動台57に一体形成した円筒部102に回転自在に外嵌支承されている。円筒部102

横移動体111の左右両端側には前後方向に延設したコ字状レール116、117が相互に平行に一体形成され、該レール116、117には縦移動体118の左右両端面に前後方向に延設形成したコ字状レール119、120がボール（図示せず）を介して摺動自在に嵌挿しており、縦移動体118は横移動体111に対して円滑に縦方向（前後方向）に移動できるように構成してある。

縦移動体118は左右枠121、122と前後枠123、124とにより枠状に形成され、左右枠121、122の前端側に亘り下面ガラス125が横架固設してあり、その上面に上面ガラス126が載置してある。

127は基体100の後端側偏平部100aにビス128で固設した長コ字状に折曲した取付板であり、その取付面127aには磁性を有するゴム体により形成されたインディケータ板129が密着して固定される。該インディケータ板129はピン130と取付穴131とにより取付位置

特開昭54-65528(5)
の外周壁102aにはV字状の環状溝103が削設してあり、該環状溝103に嵌合する円弧状先端面104を有する楔片105が環状突起101の溝106内に出入り自在に嵌挿してある。107は基体100に支軸108を介して回転自在に設けた偏心カムであつて楔片105の後端面105aと対峙し、偏心カム107を回転させると楔片105を環状溝103に嵌合圧着するようになって基体100の回転に抵抗を付与するようになっている。なお、この回転抵抗は偏心カム107の回転角によつて決定される。

基体100の前後端側には左右方向に延設した前後一對のコ字状レール109、110が相互に平行に固設され、該各レール109、110には横移動体111の前後下端側に左右方向に延設した前後一對のコ字状レール112、113が多数のボール114、115を介して摺動自在に嵌合してあつて、横移動体111は基体100に対して横方向（左右方向）に円滑に移動できるように構成してある。

が規制してある。

132は縦移動体118に一端を片持ち状態で固設した板状体であり、板状体132の自由端には取付板127の下面127bに接触するブレーキ部材133が固設してあると共に、板状体132はバネ134でブレーキ部材133が取付板127の下面127bに接触する方向に回動付勢してある。

前記縦移動体118の後枠124の下面124aには前記ブレーキ部材133と対峙した背圧部材135がインディケータ板129に接触するように設けられ、取付板127のインディケータ取付部127cをブレーキ部材133と背圧部材135とで挟着支持して縦移動体118が移動しないようにしてある。

また、前記縦移動体118の左右枠121、122の後端側部分に亘り移動板136が移動自在に設けられ、該移動板136の前端側には楔片137が下向に一体形成してあり、該楔片137は前記板状体132に立設形成した押下

部材138の傾斜面138aと対峙し移動板136が後端側に移動した時に板状体132を下方に押し下げてブレーキ部材133を下面127bより離隔するようになつてゐる。

また、移動板136の後端側には後枠124を覆うカバ139内に臨む握り片140が一体形成してあつてカバ139と握り片140とを同時に握ると移動板136は後端側に移動するように構成してある。

141は縦移動体118の左右枠121、122間における前端側位置において上下揺動自在に横架支承したガラス載台であり、該ガラス載台141上に前記上面ガラス126の前端側が載置されると共に、その両側には傾斜面142、143を有する一对の突片144、145が一体的に形成され、縦移動体118を後端側に向つて移動させると一对の突片144、145の傾斜面142、143が横移動体111の左右レール116、117上端面に設けた一对の当接片146、147に干渉接合してガラス載台

141が回動し上面ガラス126も上方に回動して下面ガラス125より離隔するから、フィルム19の装着・取出しが簡単となる。

148はカバ139に固設したポインターであり、該ポインター148をインデキータ板129の任意の駒に合致させることによりその駒と対応したフィルム駒を所定位置に合せることができる。

以上の実施例によれば次の利点を有する。

- ① 第2ミラ23を実線位置とすればスクリーン2上にフィルム19の像を投影できる。
- ② 第2ミラ23を仮想線位置とすればフィルム19の像を感光ドラム22に投影して複写することができる。
- ③ 倍率切替レバ10を操作することによつて第1・第2拡大レンズ20、20'のどちらか一方を光源14と対峙した所定の位置とすることができるから、投影像の倍率を変更できる。
- ④ 移動台57と感光ドラム22とは連動しているからフィルム19から複写する場合に、フ

ィルム19と感光ドラム22とを同期して移動できるから、正確な複写をすることができる。

- ⑤ 第1・第2拡大レンズ20、20'を交換動作すると自動的にクラッチ52が切替つて移動台57の移動速度が自動的に2段階に切替るから、投影倍率の変化操作が簡単となる。
- ⑥ 投影倍率を変化するとフィルム19のスタート位置を変更できる。
- ⑦ フィルム載せ台18は移動台57に対して回転できるから、フィルム19を上下ガラス126、125間に装着したままの状態ですクリーン2の投影像を転倒移動できる。
- ⑧ フィルム載せ台18における横移動体111、縦移動体118は円滑に左右・前後方向に移動でき、フィルム19の駒の選択操作が簡単となる。
- ⑨ カバ139と把手140とを同時に握れば縦移動体118と基体100に設けた取付体127との装着固定状態を解除でき、把手140を離せば縦移動体118と基体100に設けた取付体127とは装着固定されるから、⑧項で

述べたようにフィルム19を前後・左右に円滑に移動できると共に、所定の位置で確実に移動固定できる。

- ⑩ インデキータ板129は磁石により取付体127に吸着されているから、簡単な操作でインデキータ板129を交換できる。
- ⑪ フィルム載せ台18は楔片105を弛めることにより移動台57より取外すことができると共に、楔片105の押付け力を調整することによつてフィルム載せ台18の回転抵抗を調整できるから、ある程度の操作力を付加することによりフィルム載せ台18を回転できかつ振動等が作用しても微動することがない。

本発明は前述のように構成したので、投影拡大倍率を変更するとフィルム19の移動速度が自動的に切替り、その操作が簡単となる。

また、機械的な手段により移動速度が自動的に切替るから動作タイミングズレ等がなく作動が確実となると共に、電気的な複雑な制御回路等を必要としないから構造簡単となる。

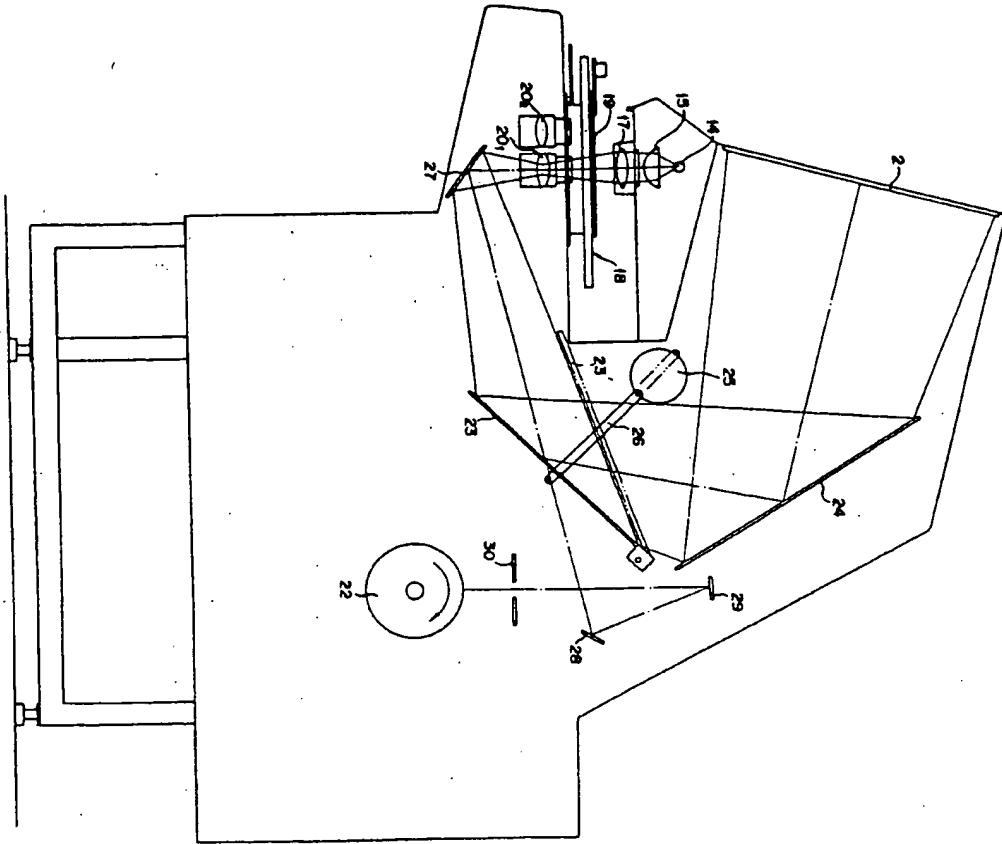
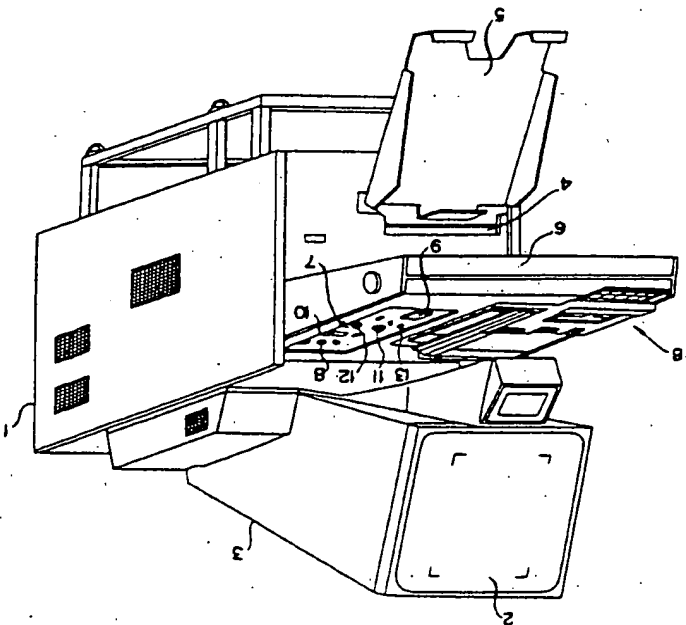


图 2.2



☒ 1 集

図面の標準を説明

図面は本説明の基準を示すものであり、第1図は全体的な配置図、第2図はその前後投影、第3図は正面投影、第4図は側面投影、第5図は上面投影、第6図は下面投影、第7図は前面投影、第8図は後面投影、第9図は左側面投影、第10図は右側面投影、第11図は前面投影、第12図は後面投影の配置図である。

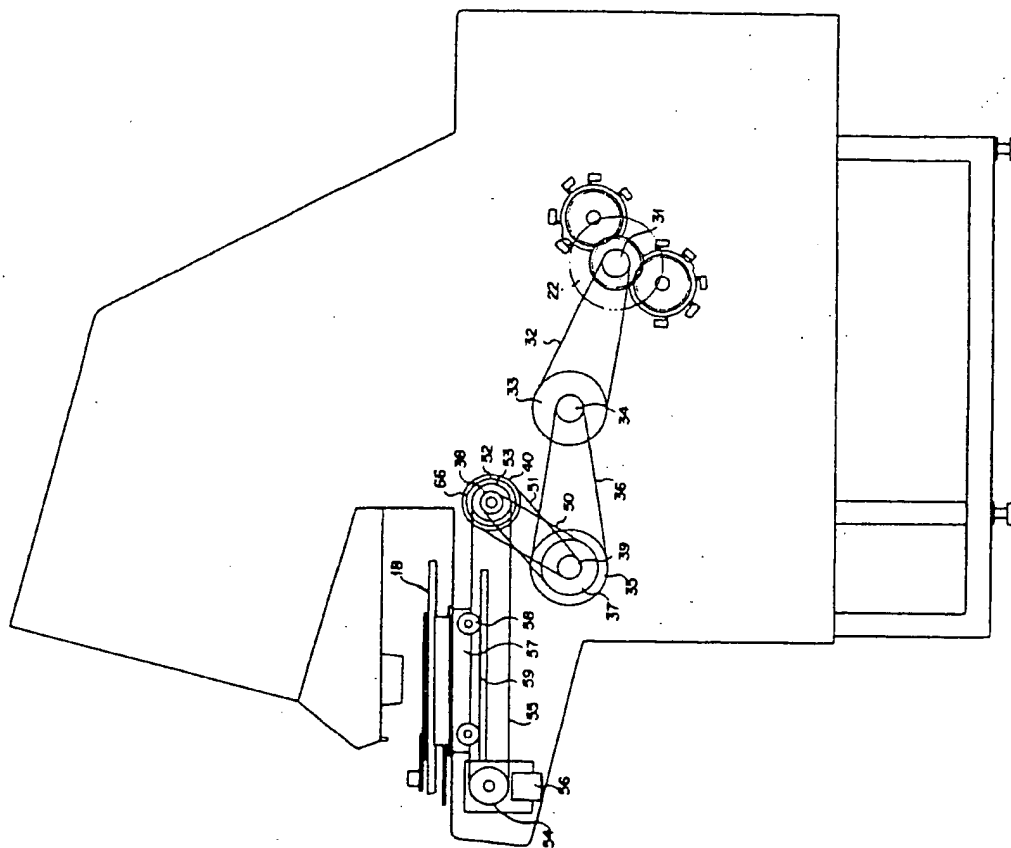
2はメトリック、18はメトリック、19はメトリック、20はメトリック、57はメトリック。

出願人 富士ゼロックス株式会社

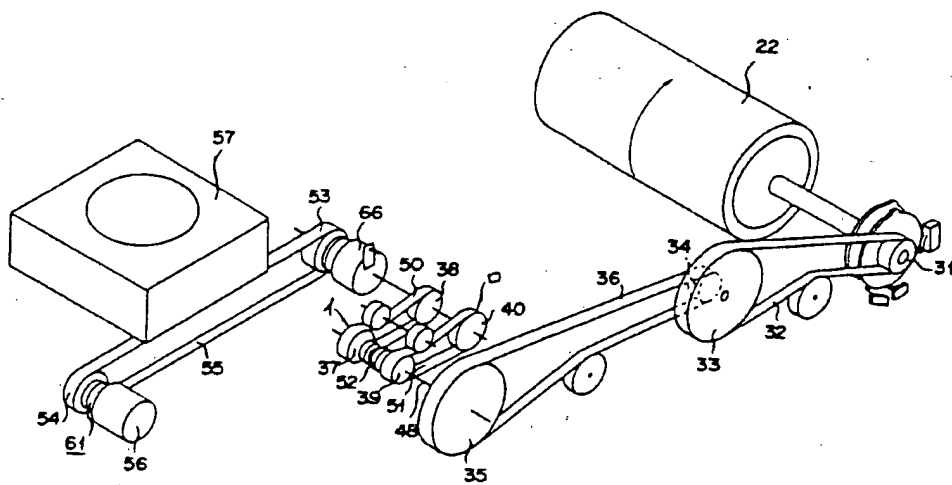
代理人 弁理士 米 原 正 章

本 册 上 册

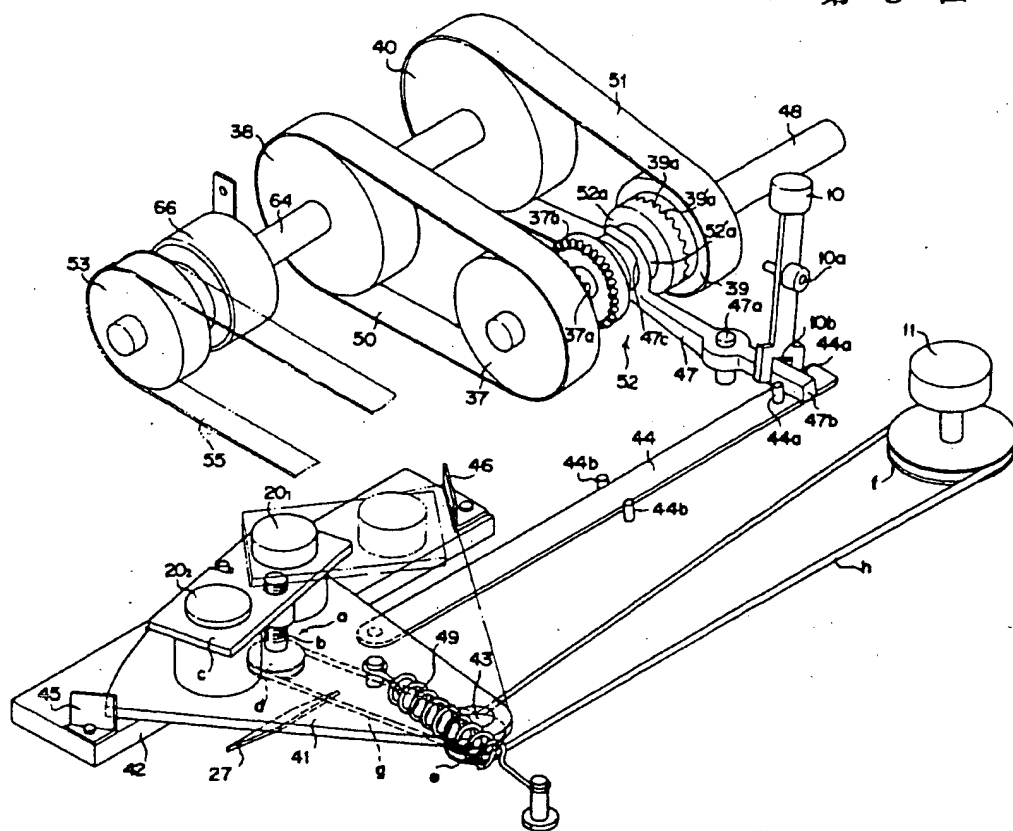
第 3 図



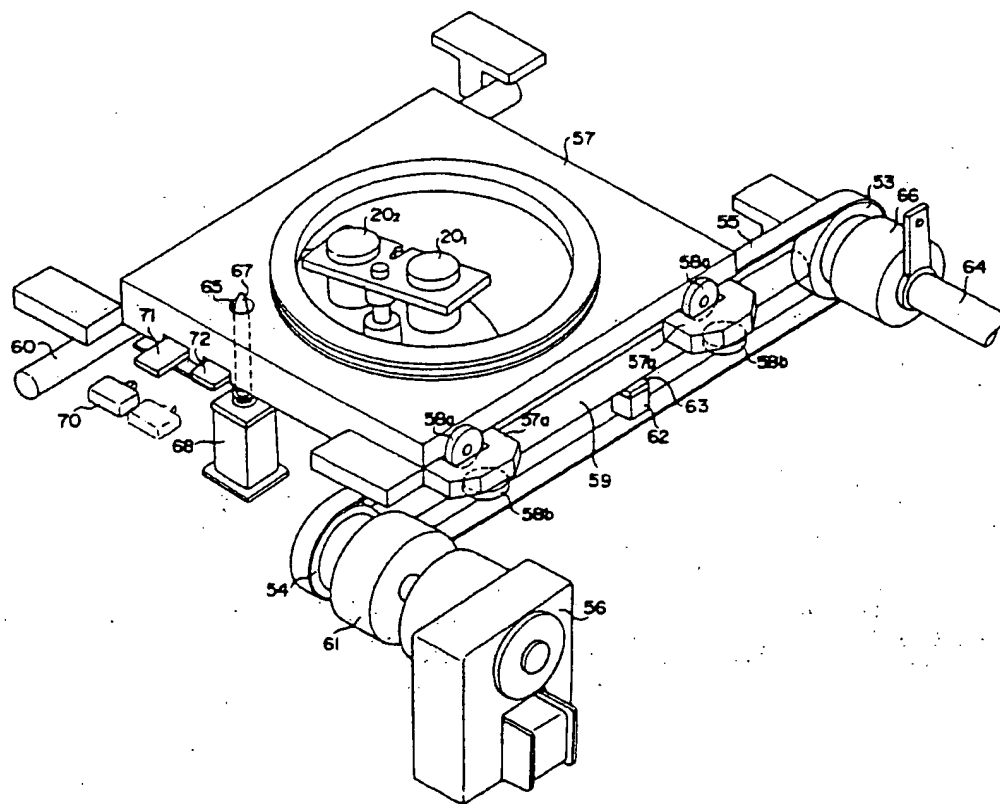
第 4 図



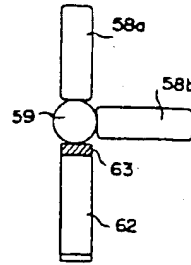
第 5 図



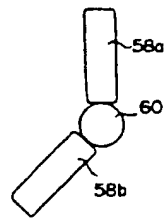
第 6 図



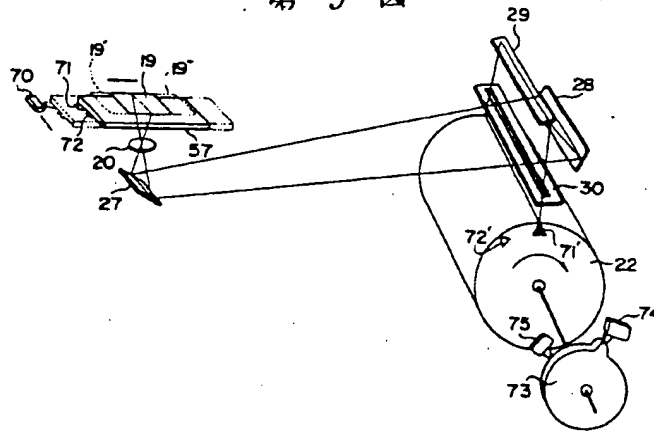
第 7 図



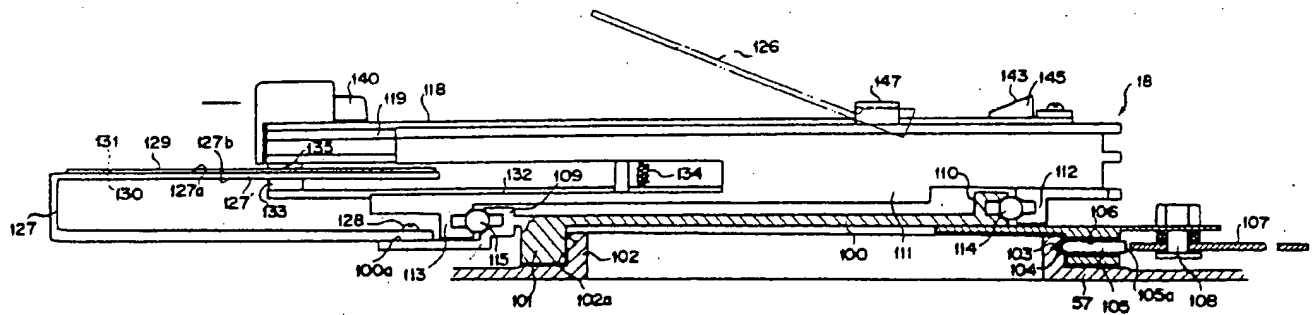
第 8 図



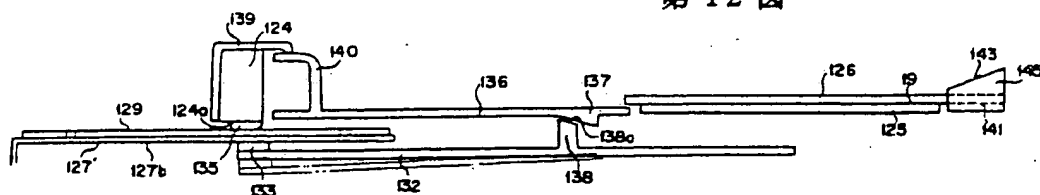
第 9 図



第 10 圖



第 12 図



第 11 図

